# 令和３年度　学校関係者評価

鈴鹿市立稲小学校

| 評価項目 | | 本年度の活動（具体的な手立て）と指標 | 学校関係者評価（◎成果　△課題） | 今後の改善点（成果●　課題▲　⇒改善策） |
|---|---|---|---|---|
| 学力の向上 | 授業等 | ①昨年度みえスタディ・チェックの分析から具体的な対応策の実施<br>・学習内容の定着を図る取組推進<br>②授業研究会の実施<br>・全教員が年間1回の授業研究会実施<br>・言語能力，活用力の育成<br>・主体的，対話的，深い学びとなるような<br>アクティブラーニング型授業の創造<br>③既習事項の定着（学びなおし）につながる学習指導<br>・全校で取組む「読み上げ計算」<br>・稲タイム（補充学習）年5回<br>・年間授業計画精選と効率的授業のための教材研究 | ①◎小規模校のいいところは全職員で共通理解できる場が多くある。<br>②◎授業改善に向けた授業研究会の成果が見られる。引き続きよくわかる授業の工夫を。<br>授業テクニックや生活指導のノウハウを温故知新で学び合うとよいと思う。<br>③「読み上げ算」のような工夫や地域のやり方を聞き共有してはどうか。<br>△「稲タイム」はもう少し時間を増やしてはどうか。<br>◎今の学級単位の取り組みは落ち着いている。<br>能力別・選択にすることもできるだろうが，ボラも学力の違いを目の当たりにすることになるので難しいだろう。 | ①●部会に分かれて問題を解き，児童の実態を把握し，強みと弱みを分析した。<br>●全職員で共通理解することで，2学期以降の授業で意識することができた。<br>②●全職員が授業研究をすることを達成することができた。<br>●授業研究の前は低学年部と高学年部に分かれて指導案検討を重ねることで，職員一人ひとりが前向きに取り組むことができた。<br>「学校の授業はよくわかるか」94％（児童アンケート7月→12月3.7%増）「進んで発表する」83%（児童アンケート7月→12月9.7%増）<br>③●算数の「読み上げ計算」については，スクールサポートスタッフに全種類を印刷教材化してもらったことで，すぐに使用できるようになった。<br>●稲タイムは，各学年の実態に合わせて問題を用意することで，より意味のあるものとなった。<br>▲全校での取り組みとしてはまだまだ浸透できなかった。⇒基礎学力（特に低学年の四則計算）の定着を目標としている。学力の2極化も課題。力に合わせて取り組めるドリルで，時間が取れたら埋めていきたい。よりよい方法を見つけていくことが必要である。 |
| | 家庭学習 | ④学年の目標学習時間の達成率80％以上<br>・「家庭学習の手引き」の活用 | ④△疲れ物が多くなっていないか。<br>家庭学習は各家庭の親の責任でもありますね。<br>△すべての家庭にもっと周知していただきたい。<br>△自分で進んで学び考え年間を通して取り組めるのがいい | ④▲各学年工夫を図りながら倍題を出しているが，宿題を忘れてきたり，宿題を早く終わらせて，学年の目標学習時間（学年×10～15分）を達成することはなかなか難しい。家庭学習強化週間達成率89.5%（12月）⇒固定化していないので，家庭の協力をいただきながら，個別指導を継続する。年間通して学年の目標学習時間を意識した取り組みが必要である。また，「家庭学習の手引き」をもとに，家庭訪問の機会に丁寧に説明できるようにする。「自主学習ノート」の活用も含めて今後の課題としていく。<br>「予習をしていますか」65.2%（児童アンケート7月→12月2.9%減）「復習をしていますか」79.7%（児童アンケート7月→12月2.6%減）「宿題をしていますか」98.3%（12月） |
| | 読書 | ⑤図書巡回指導員の活用<br>・ブックトーク（本の紹介）年6回以上 | ⑤動画配信サービスなどを利用できないだろうか。<br>◎引き続き継続をお願いしたい。本を読むことは子どもの成長にもなる。<br>△図書館支援員さんとカラ法を研究してもらえたら。<br>△子どもたちは環境も変化しており，読書に関心があるかもしれない。<br>図書館支援員の活用と図書館ボランティアのすみわけをしてほしい。 | ⑤●多方面において，遅に一度の図書館支援員の活用ができた。<br>子どもたちが図書室を訪れるきっかけ作りとしてイベント企画，図書の時間のオリエンテーリングや読み聞かせ，国語の授業での本の紹介，本の選定の助言，図書館整備など。⇒さらに子どもの興味関心をリサーチしたり，図書館支援員からアドバイスをもらいながら工夫していきたい。イベント開催，図書便りの発行，コーナーづくりなどを継続する。また，できる限り月2回「お話を配信」を続けた。今の状態であれば対面での関わり合いの効果を意識したい。また，家庭への協力を呼び掛け，家読の勧めをする。図書館ボランティアさんの活用を考えていく。 |
| | 特別支援教育 | ⑥通常学級での支援<br>・校内支援会議の開催，対象者1人×2回<br>・特性に応じた支援方法の研究 | ⑥◎支援が必要な子の職員間情報の共有化ができているのは素晴らしい。<br>子どもに合った指導は全体の関係もあり難しい問題だが，体制を維持しながら進めてもらいたい。 | ⑥●月1回の定例校内支援会議を持ち，全職員で支援対象者の理解を深めることができた。スクールカウンセラーも加わり，必要な子ども や保護者には適宜面談や支援会議を持ち，改善に繋げることができた。⇒支援方法の研修も進めていきたい。 |
| | プログラミング教育 | ⑦ICT活用指導力の向上<br>・月2回の支援員さんを授業でTT活用<br>⑧実践的な研究会実施1回 | ⑦◎新しいことにチャレンジお願いしたい。子どもたちを取り巻く環境から求めは理解しますが，新しい分野であり，なかなか難しいと思います。<br>△焦って，できない子がいないようにしてほしい。 | ⑦●月2回をどの学年も積極的に活用できていて，ICT支援員が教員のニーズに応えて教えていただけるため，苦手にしないときでも教員が積極的に活用する風面が増えた。<br>⑧●研修会を実施し，説明をうけたアプリは次の学期で活用することができた。 |
| | キャリア教育 | ⑨「すずか夢工房」など外部講師の活用<br>・年25回以上 | ⑨◎コロナ禍ですが，極々な学習体験や地域のボランティアの指導は子どもたちにとって身近であり，継続してより多く実施をお願いしたい。 | ⑨●外部講師の活用は，ボランティアさんも含めて，内容を考えながら十分行うことができている。<br>外国語活動10回，生活指導関係3回，ダンス・スポーツ5回，数科3回，総合（生活体験・文化）１０回など。 |
| | 多文化共生教育 | ⑩外国語学習の成果活用<br>・外国人へのインタビュー高学年各1回<br>（5年生社会見学，6年生修学旅行時） | ⑩◎修学旅行などこであれ，先生方の臨機応変な対応により，子どもたちに違った形での機会を作っていただけた。皆一緒に寝泊まりした2日間はとても良かったと聞いた。<br>この活動は稲小の特徴でもあり，積極的に進めてほしい。行事は協力したことが記憶に残る。伝統である。（稲ワールドも含めて）<br>グローバル化に伴い取り残されることのないよう積極的に進めていただきたいが，コロナ禍で活動が制限され，子どもたちがネイティブな英語に直接触れる機会が奪っているのは残念。 | ⑩▲社会見学や修学旅行で，目的地に行くことができなかったので，インタビュー活動はできなかった。<br>●代わりにお願の放送でALTの先生へのインタビューをおこなった。ブラジルの講師の方を招いて，多文化共生学習を行った。 |
| 豊かな心と体の育成 | コミュニケーション能力 | ⑪異年齢との交流<br>・わくわくタイム（異年齢遊び）月1回<br>・あいさつ運動　年11回 | ⑪◎縦割り班はとても良い活動である。小規模校での良さを生かし，異学年での交流がはぐくまれていることが感じられる。<br>⑪△あいさつ運動はまだまだだと思う。見守り隊で朝のあいさつ運動をしていても，返さない子もいる。<br>◎高学年ができて進んで行えば低学年も問題し元気に返事が返ってくるようになってきた。先生方の指導のおかげと，地域でも声掛けをおこなうように動める。 | ⑪●わくわくタイム月2回できた。6年生を中心とし縦割り班で子ども主体で活動できた。<br>「わくわくタイムは楽しい」児童アンケート95.7%（7月→12月4.3%増）<br>⑪●PTAおはようパトロールは教員も参加することで児童の挨拶への意識も高まった。<br>▲あいさつ運動において，児童会主体の強化週間は形骸化してしまっている。⇒⇒学校でも課題。子ども体の活動として仕掛けていく必要があると考える。生指担当からの器具はあるが，改めて児童会主体で計画的に取り組む必要がある。「自分からあいさつをする」児童アンケート94.1%（7月→12月4.2%増） |
| | 体力，運動能力 | ⑫昨年度新体力テストの分析から具体的な対応策の実施<br>・全校で取組む体育の時間の最初5分間「サーキットトレーニング」 | ⑫体力テストの結果を分析し，テーマを決めて実施してはどうか。<br>◎運動会でも子ども全体の元気のある姿を見ることができ，普段からの指導教育と思う。 | ⑫●どの学年も，サーキット，マラソン，大縄など時期に合わせた運動に取り組んでいる。⇒分析の結果として，わくわくタイムでのドッジボール，サーキットトレーニング，マラソン，大縄で強化することとし取組んでいる。しかし，詳細は学年任せとなってしまったので，具体的な提案をもとに足並みをそろえていきたい。 |
| | 基本的生活習慣 | ⑬各種チェックリストの活用<br>・鈴鹿中学校区「家庭学習の取組」年3回<br>・みえの学力向上チェックシート」年2回 | ⑬◎継続願いたい。<br>読書ポイントアップは理解に反映されているのか。<br>△家庭学習は保護者の方との連携を取りながら少しでも習慣化するよう，また向上心を植え付けていただきたい。 | ⑬●校区で時期を合わせて，家庭へも通信で啓発しながら行えた。⇒自分で読書活動を計画的に行える子が増えたことは直接の成果ではないが，文を読み取り概要をとらえる，作者の思いを理解するのは，読書量に大いにかかわるといわれているので，ポイント増はいい方向のひとつと捉えすすめていきたい。<br>●家庭学習の取組は達成率が上がった。（達成率学習6.1ポイント増　読書3.3ポイント増）<br>⇒取り組み期間中はよかったので，普段からも家庭学習が行えるように手立てを考えていきたい。 |
| 楽しく学べる学校 | 安心して安全安心な学校づくり | ⑭学校生活についての満足度調査<br>・「学校は楽しい」97%以上<br>・連続欠席3日について背景の確認<br>・不登校0名<br>⑮いじめアンケートの実施（年3回）<br>・組織的な指導（いじめ案件の全て）<br>・いじめ案件100%解決<br>⑯登下校の安全<br>・校長による登下校指導（毎日）<br>・危険箇所点検（年1回）<br>・子どもを守る家の確認（年1回） | ⑭◎学校が楽しいと思う子どもがたくさんいる様は大変喜ばしい。先生方の細やかな対応の成果が感じられる。学校の楽しさ，友だちの大切さ等をさらに指導していただき，組織的かつ敏捷に対して取り組んでもらいたい。<br>担任だけでなく，全職員での手立てが必要ではないか。<br>⑮いじめについては対応，対策を教育委員会と連携願いします。<br>機会あるごとに全職員が声を出して指導していただくことが大切だ。<br>⑯△ボランティアの世代交代とは<br>△安全安心ボランティアについても人数面で検討の必要性を感じている。活動内容を考えて人数を確保してほしい。<br>登下校の見守り，あいさつなど，青パトによるボランティアの巡回，地域の方たちも対応してくださるので，元気で安全安心な学校づくりをお願いしたい。<br>△登下校の際に，多くのボランティアさんが参加してもらえるような声掛けをするといいと思います。<br>△危険箇所点検と子どもを守る家の確認は役員さんが変わるたびに行ってほしい。 | ⑭●学習や生活面で課題を抱えている児童がいるが，特別支援Coを中心に効果的に支援をすることができた。⇒さらに登校渋りや不登校にならないように継続する必要がある。今後も情報共有は学校全体で把握し，手立てを相談し，具体的なアプローチは担任を中心とした学校全体で組織的におこなっていく。<br>「学校は楽しい」児童アンケート96.6%（7月→12月15.9%増）不登校0名　長期欠席10日以上2名（12月末）<br>欠席増の児童に対して理由の把握はもちろん，担任によるきめ細やかな対応と手立ての継続が必要であるとともに，家庭と連携をして協力をお願いしていく。<br>⑮●いじめ事案の解決については，見過ごすことなくすべての事案について対処できている。⇒今後も早急に報告・連絡・相談をし，対応する様点（継続性・攻撃性など）を定めて，複数体制を基本としていく。<br>⑯●校長の巡回等を継続して実施できている。<br>●毎朝危険交差点で，ボランティアによる見守りと青パトロール3台の地域巡回も行われている。また，PTAの協力で，危険箇所点検と子どもを守る家の確認が行われている。⇒毎日の見守り隊の方で，体力的に限界があるといわれることがあるので，今後，新規の交通安全ボランティアさんの募集を行う。また，「B，3運動」をさらに広めていく。危険個所点検はPTAさんに毎年行っていただいているので継続してもらう。 |
| 家庭や地域との連携 | 地域とともにある学校づくり | ⑰情報提供の充実<br>・学校だより年間22号以上発行<br>・学校ホームページを年24回以上更新<br>・学校自己評価の提供<br>・学校関係者評価の実施<br>・満足度調査（児童，保護者）の結果提供 | ⑰◎学校だよりは，学校から保護者や地域への定期的な情報発信があり，とても具体的で，地域とともにの学校づくりに努めているのがよくわかります。<br>学校だよりに合わせて学年だよりも発行されているので，ここで保護者の理解や協力を得ることも期待したい。 | ⑰●学校だより41号発行（1月17日現在）している。▲HPの更新15回（12月末）。⇒必要な内容は早めに更新するように心がける。<br>行事の精選・縮小により学校に来ていただく機会がなかったため，子どもたちの活動や成長，地域との交流，ボランティアさんの活躍，教員や学校の現状などを発信した。また，各担任は学年だより で子どもたちの様子を適宜伝えることができている。<br>「学校は教育方針や活動内容をわかりやすく伝えている」96.2%（保護者アンケート7月→12月2.3%増）⇒読んでもらいやすいように工夫する。<br>●職員が自己評価を行い，学校運営協議委員に意見をいただき，学校関係者評価を策定している。<br>●学校アンケート（児童用・保護者用）の結果を，学校だよりやHPで保護者・地域に提供している。 |
| 働き方改革 | | ⑱定時退校日の設定（月2回）<br>・その日に退校できる職員の割合80%<br>⑲会議時間の短縮<br>・職員会議資料の事前配布と提案時間明記<br>・60分以内に終了する会議の割合70% | ⑱◎自課程を立て，遅残できる工夫を今後もし，先生方に無理をさせない，しないようにお願いします。<br>スクールサポートスタッフ，図書館支援員，スクールカウンセラー，ICT支援員などの外部からの支援を有効に活用し，定時に退校できる日を増やしていただきたい。<br>⑲1時間会議は10分前にアラームを鳴らすなど設定してみてはどうか。<br>質の高い教育をおこなっていただくために大切な取り組みと思いますが，「前例に拘らず省けるところは省く先自い」とし環境改善をお願いします。 | ⑱●定時退校日の設定を行事計画に入れ，計画的に無理なく行えた。達成率平均85%<br>⑱●部会の会議は，議点を絞って提案をしてもらっていた。また，ある程度下打ち合わせができており，職員会議は時間設定を事務書に入れていたので，素直して提案することはできた。<br>▲議事内容が多さや内容によっては長引いた。60分以内達成平均41%　⇒内容を精選して手短に伝えるように意識する。 |